

# やなかわ

YANAGAWA 2013. 5月1日 No.195

## 今号の内容

- | 今号の内容  | ページ |
|--|-----|
| ◆就任2期目の金子市長が語るほか   | 2～3 |
| ◆地域福祉計画・活動計画を策定  | 4～5 |
| ◆コミュニティバスの運行が一部変更  | 6   |
| ◆夏の水まつりの開催日決定ほか  | 7   |
| ◆柳川ブランド認定品を募集  | 8   |
| ◆市内2店舗が屋外広告景観賞ほか   | 9   |
| ◆市民のひろば(10-11) ◆川柳(11) ◆<br>図書館・水の郷ニュース、柳川百選まち歩き<br>(12-13) ◆情報わいど(14-20) ◆がん<br>ばったね(20) ◆柳川にこの人あり 成清幸<br>子さん(20) ◆もちふみデビュー(21)<br>◆保健ガイド(22-23) ◆新市史抄片(24) |     |



## 干拓完成を記念し奉納相撲

両開干拓(橋本町)の龍神宮で4月15日、両開小学校の児童153人による相撲大会が行われました。この催しは、両開地区の干拓事業が完成した大正14年4月15日を記念して、毎年奉納されているもの。力いっぱい相手にぶつかっていく児童たちに、児童や保護者から「もっと押せ」「腰を低く」など大きな声援が送られていました。

## 編集後記

●4月から広報担当になりました。「アチアチの新人です」と言いたいくらいです。7年ぶりの復帰です。このコーナーでは、よく子育て日記のようなこと書いていきましたが、一番上は中学生になりました。またいろいろな所におじゃますると思えますが、よろしく願います。(英一)

●広報担当となって5年目に突入。カメラ片手に地域行事などを取材するたび、柳川のことを本当によく知らないと感じながら、あつという間に過ぎた4年間だった。今もあまり変わらないような気がするけど、ちよつとは成長したよ。ね、たぶん。今年度もよろしく願います。(賢治)

平成25年3月末現在

### 人のうごき

- 人口 70,666人 (前月比-219)
  - 男 33,456人 (-128)
  - 女 37,210人 (-91)
- 出生 41人、死亡 71人
- 転入 300人、転出 489人
- 世帯数 24,846世帯 (-7)

## 柳川に残る「くど造」の民家

「くど造」という北部九州を代表する民家の造りがある。茅葺(ちやぶき)などの総称(そうしょう)の屋根の両端から角屋(つのや)を出して、コの字形に屋根を造ったもので、入口と谷の位置関係で、前谷型・後谷型・横谷型に分けることができる。



後谷型



横谷型



三谷七しき



付書院・長押がある座敷

5.5間が多く、梁間(はりま)は2.5間が多い。後谷型で平面を見ると、片方の角屋に土間があり、表側には土間に面した部屋と座敷が並ぶ。座敷の奥、もう一方の角屋には寝間を、谷下部分には土間に面した板間をとる。このような四間取が一般的である。正面幅が広い場合、表側では座敷前室としての次間を別に設け、谷下の部屋にも畳を敷き詰め、土間に面した板間と合わせ奥にも3室が並ぶ。また、角屋が長い場合、座敷と寝間に加えてもう一つ部屋をとることがある。座敷には床の間と仏壇が並ぶ。縁側に面した書院は、半間の平書院がある。

一般的であるが、明治の中ごろには1間の付書院とする住宅も現れる。部屋境には大きな差し鴨居を入れるが、それに長押を取り付けて座敷を格式高く整える場合も現れてくる。土間から座敷へ行くためには表側の部屋を通り抜けることが一般的である。しかし、土間境を壁で閉じてその部屋に上がれないようにし、土間境の奥の部屋から座敷へ行けるように喰い違い四間取とすることがある。この場合、表側の部屋は家族の生活空間として安心して使えるようになる。伝統的な民家の造りである「くど造」も近代になると近世とは異なるさまざまな変化が現れている。数棟の近世の遺構を含め、築100年を過ぎた「くど造」も多く、柳川にとって貴重な歴史的遺産である。

市史編集委員 松岡高弘